



▲サギソウ (ラン科)  
シラサギが翼を広げたように見えることから、名前がつけました。



ウメバチソウ



モウセンゴケ (食虫植物)



サワギキョウ

▲森林公園で見られる湿生植物たち



▲ハッチョウトンボのための滞水域

また森林公園では、日本で最も小さいトンボのひとつといわれるハッチョウトンボの生息が確認されています。湿地を生息地とするため、散策路の端に滞水域(水溜り)をつくってトンボを保護しています。そして生息地には保護啓発看板が立てられていて、ハッチョウトンボをみんなで守り育てていこうという職員の想いが伝わります。

森林公園はひとつの里山であり、多様な生物が生息する豊かな自然環境を保っているのです。



▲ハッチョウトンボ  
雄の体長は約20ミリ、雌は約18ミリと大変小さいトンボです。雄は成熟すると体が真っ赤になります。

## 「サギソウ園」～湿地の管理～

園内の中心部にある「サギソウ園」(P2写真)では、夏、サギソウの花が見頃を迎えます。サギソウは高さ15センチ～40センチの多年草で、花は直径約3センチほどです。

「サギソウ園」では、他にサワギキョウやウメバチソウなどの湿生植物も生育しており、木歩道を渡りながら、植物を間近で観察することができます。

サギソウが生育するのは、日当たりのよい湿地です。最近では湿地の減少により、自生するサギソウを見られる地域が限られてきています。

湿地は放置しておけば、やがて陸地化していきます。湿生植物の生育を維持するため、下草を刈るなど、湿地の保全を行っています。きちんと手入れをすることによって、多様な植物が自生するようになりました。

職員の竹島さんは「花が咲く前に葉で見分け、雑草だけを刈るのは難しい作業」だと言います。希少な植物を刈ってしまったら印をつけ、配慮しながら作業を行っています。

訪れる人に季節を通じて美しい花を見て楽しんでもらえるよう職員によって適正な植物の管理がされているのです。

## 樹木医の視点から観る樹木

森林公園は来園者が安全に過ごせるよう枯れ木・倒木などの森林整備が施されていて、散策路を歩いても明るくて見通しのよい環境です。このようにして、快適さを感じてもらえるような景観づくりをしています。

さらに健全な森林を維持管理していくため、森林公園には自然に関する知識を持つ職員が常駐しています。

樹木医の資格を持つ小田さんは樹木の診断・処置などを行っています。「健全な森林づくり」についてどのような視点で樹木を観察しているのでしょうか。

## 樹木医とは？

天然記念物の巨樹・古木から街路樹、庭木など、さまざまな樹木の診断と治療などを行う専門家です。

樹木医になるには、(財)日本緑化センターが実施する資格審査に合格しなければなりません。試験を受けるには、樹木の診断、治療の実務経験7年以上などの定められた条件があります。

